

No.573
2
2025

くみあいだより

JAなんぽろ

JAなんぽろホームページアドレス　http://www.ja-nanporo.or.jp

南幌町農業協同組合

令和7年第1回営農振興組合長会議を開催

1月21日（火）、JA3階大会議室で第1回営農振興組合長会議を開催しました。

会議の前段に、南幌町米麦改良協会より推進員委嘱が行われ、林代表理事組合長より各営農振興組合長に委嘱状が交付されました。

営農振興組合長会の役員について、会長に夕張太西幌営農振興組合長の山本俊彦さん、副会長に青葉営農振興組合長の川島辰徳さんとなりました。また、議案の取りまとめや連絡事項等の説明が各部署担当よりありました。

各営農振興組合長におかれましては、JA事業の円滑な推進を目的に1年間ご協力をお願いいたします。





令和７年度　営農振興組合役員名簿

地区名	振興組合長	副組合長
三　　重	江郷　優也	井澤　祐一
青　　葉	川島　辰徳	橋爪　英機
鶴　　城	神馬　隆幸	高橋　健治
晩　　翠	白倉　智博	㈱城地農産　城地　真吾
晩　翠　西	武田　政俊	㈲野楽　柾木　英夫
1　1　区	㈲豊夢　河村　将史	山本　　隼
夕張太西幌	山本　俊彦	㈲ほなみ　池岡　真吾
川　　向	鈴木　幸光	清水　友貴
栄　　進	今田　裕寛	縄　　貴洋

乙巳年の農作物の豊作を願う

1月6日（月）、JA2階中会議室で南幌神社より宮司を招き新春祈願祭が行われました。祈願祭には、林代表理事組合長をはじめ、役員や青年部長、女性部長、各部署の部・室・次・課長が参加しました。

本年も、五穀豊穣を願うと共に組合員・役職員が無病息災でいられるようお祓いをしていただき、その後、参拝者全員が玉串奉奠を行いました。





永年の勤続を表して

1月6日（月）、JA3階大会議室で勤続10年・30年を迎えた職員4名の表彰式が行われ、林代表理事組合長より賞状と記念品が贈られました。

勤続30年を迎えた職員は、大津亮蔵課長（農業振興課）、武差功年課長（共済課）、勤続10年を迎えた職員は、渡邉真也係（農業振興課）、木村亮介係（資材課）です。

表彰後に受賞者を代表して、大津課長より謝辞が述べられました。

表彰された4名は、当JAに入協以来10年、30年という長きにわたり、職務に忠実に精励し、農協事業に貢献してきました。

また、今年で勤続20年を迎えた職員は、石橋修一郎係長（経営相談課）となります。

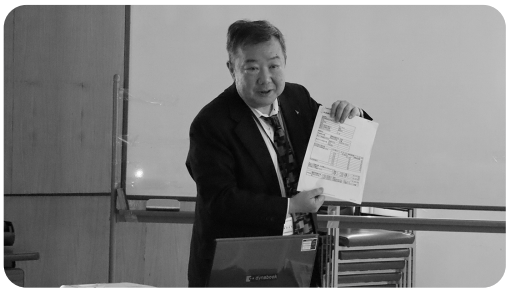




農業者年金巡回相談会を開催

1月16日（木）、JA2階中会議室で農業者年金巡回相談会を開催しました。

相談会は、南幌町農業者年金協議会主催で3年に1度開催されており、今回は北海道農業協同組合中央会JA総合支援部の廣長隆利氏を相談員に招き「農業者年金の受給にあたって」と「農業者年金の仕組み」という題目で受給予定者と加入対象者に分かれた二部構成で開催されました。一部では受給方法や注意点などについて、二部では加入方法や農業者年金のメリットなどを説明していただきました。





JA YOUTH

青年部だより

発行者
JAなんぽろ青年部
編集責任者　石川 卓也

青年部通常総会を開催

令和7年1月7日（火）、JAなんぽろ3階大会議室で令和7年JAなんぽろ青年部通常総会を開催しました。

総会では令和6年度事業報告並びに令和7年度事業計画・収支予算や役員改選など、審議された議案について、全て承認されました。

若杉新部長からは、「コロナが明け、活動が再開する一方、盟友数が減少する中ではあるが、魅力ある活動をしていきたい」と新体制に向けた意気込みを話していただけました。

総会によって今年度の活動基本方針等が決まったので、今後は新役員を筆頭に青年部活動をより盛り上げていきたいと思います。

なお、新役員と活動基本方針は下記のとおりです。

令和7年度活動基本方針

1. 盟友一人一人が青年部としての自覚を持ち、青年部活動に参加する。
2. 関係機関と連携し、食農教育の一端を担い、食の大切さを伝える。また、ホクレンくるるの杜での農業体験・町内食育活動を通じ、消費者との交流を深める。
3. ホームページ等のITツール運営や南幌農産物の販売活動を通じて、JAなんぽろ青年部活動を全国に向けて発信する。
4. 関係機関との交流会を実施し、知識を広める。
5. JA夜まつり等のイベントに参加し、南幌町の活性化に貢献する。
6. 営農技術向上のため各種研修会、勉強会に積極的に参加する。

部　長　若杉　宗樹（栄　進）
副部長　石川　卓也（晩翠西）
会　計　増田　秀樹（晩翠・㈲フローア）
代表監事　鈴木　善友（栄　進）
監　事　髙島　裕也（栄進・㈲ＮＯＡＨ）
参　与　岩村　国宏（11区・㈱響）







JA YOUTH

青年部だより

発行者
JAなんぽろ青年部
編集責任者　石川 卓也

東北・北海道地区ＪＡ青年大会に参加

1月14日（火）から15日（水）にかけて、札幌パークホテルで開催された令和6年度東北・北海道地区ＪＡ青年大会に盟友3名が参加しました。

当日は、北海道から福島県までの東北・北海道地区の盟友約４００名が北海道札幌市に集まり、令和6年度全道ＪＡ青年の主張大会や第49回全道ＪＡ青年部活動実績発表が行われ、各道県大会を勝ち抜いた大変レベルの高い発表を聞くことができました。そのような中、北海道代表のＪＡ夕張市青年部が、活動実績発表において最優秀賞を受賞するという快挙を成し遂げ、2月27日に開催されるＪＡ全国青年大会への進出が決定しました。

本大会が北海道で開催されるのは各道県を順番に周っていくため7年に1度であり、来年活動実績発表を控えているＪＡなんぽろ青年部にとって大変貴重な経験となりました。





女性部短信

フレッシュミズ視察研修を開催

12月18日（水）、フレッシュミズ視察研修が開催されました。

初めに、石狩市にある〝ホクレンパールライス工場〟へ見学に行きました。お米が工場に届いてから、商品として店頭に並ぶまでの過程を、実際に工場内を見ながら、丁寧な説明を聞いて、学ぶことができました。参加した部員からは「楽しく勉強することができた」という声がきこえました。

その後、札幌市方面へ向かい昼食をとりました。広々としたスペースで最近の出来事、お子さんのこと等会話を楽しみながら食事することができました。最後に、札幌市にある〝アオアオサッポロ〟へ見学に行きました。短い時間でしたが、水槽の中の珍しい生物や、手を伸ばせば触ることができそうなペンギン達を見ることができました。

今回の研修は、同世代の皆さんが集まり、近況報告等終始話題の絶えない、楽しい視察研修となりました。







長船技師による営農情報！



復元田に対する施肥について

JAでは、昨年秋に組合員の方々から提出していただいた土壌サンプルの分析が終了し、現在、処方箋を作成中です。施肥相談会の日程が決まり次第ご連絡しますので宜しくお願いします。本年の特徴として復元田の依頼分析が多くなっています。今月は復元田の特徴と施肥についてお話ししたいと思います。

1　土壌窒素の供給と吸収

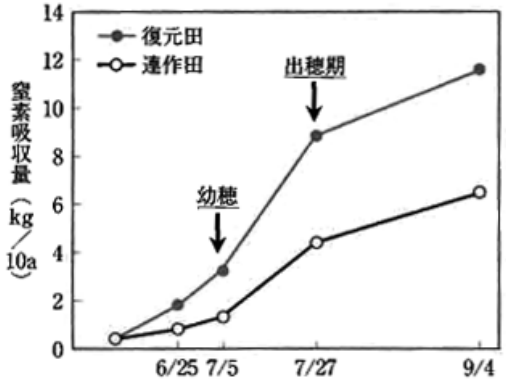
転作畑を一定期間経過後に再び水田に戻した復元田は、通常の連作田とは異なる特徴が見られます。

（1）畑地利用時に乾燥が進んで亀裂が下層土まで発達し、連作田よりも透排水性が向上しています。

（2）泥炭土の場合、転作時のプラウ耕などで下層の泥炭が上層へ混入し、作土の有機物含量が増加します。

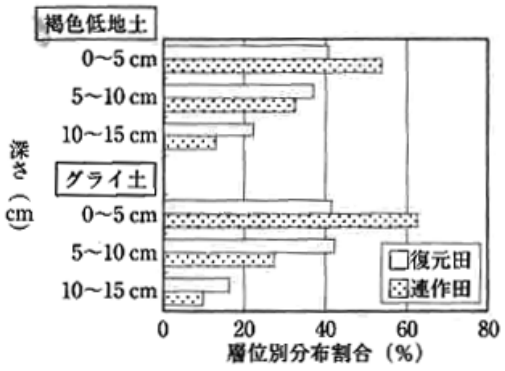
（3）水田土壌をいったん乾燥してから湛水すると、無機態窒素量が増加します。通常、復元田における水稲窒素吸収量は連作田と比べて増加します。

図1　水稲窒素吸収経過



（北村、泥炭土、無窒素区、1984 年）

図2　水稲根層位別分布図



（上川農試、1975 年）

2　復元田に対する窒素施肥対応

「北海道施肥ガイド2020」では、復元田の窒素施肥に当たり、土壌型や前作物の種類や復元田の年数ごとに、施肥標準に対する窒素施肥率を設定しています。

表1　復元田における窒素施肥対応

土壌区分	前作物の種類	復元後の年数	施肥標準に対する施肥率	施肥配分	
				全層	側条
低地土（乾） 灰色低地土 火山性土	豆類、麦類、そば、馬鈴しょ	1年目	70～80%	50%	50%
		2年目	100%		
	てん菜茎葉すき込み、牧草、野菜	1年目	50～70%		
		2年目	60～80%		
	秋まき小麦春すき込み[1)]	1年目	60%		
グライ低地土 台地土	豆類、麦類、そば、馬鈴しょ	1～2年目	60～70%		
	てん菜茎葉すき込み、牧草、野菜	1～2年目	40～60%		
	秋まき小麦春すき込み[1)]	1年目	50%		
泥炭土	豆類、麦類、そば、馬鈴しょ	1～3年目	50～60%		
	てん菜茎葉すき込み、牧草、野菜	1～2年目	30～50%		
	秋まき小麦すき込み[1)]	1年目	40%		

1) 雪腐れ病の多発などによりやむを得ず起生期にすき込む場合の施肥対応
※透水性の大きい礫質土壌では減肥しない
※リン酸・カリの施肥量は施肥標準に従う
※秋まき小麦春すき込みの2～3年目は麦類に準ずる

（「北海道施肥ガイド 2020」より）

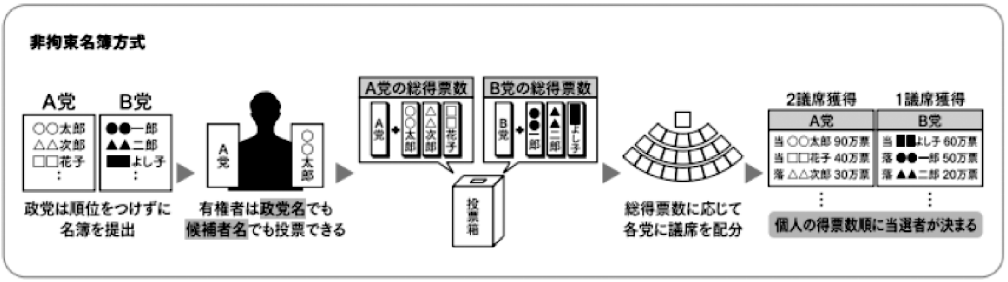
参考資料：「北海道の施肥最適化マニュアル」、「北海道施肥ガイド2020」

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第5回「参議院選挙の仕組み」について

農政活動の柱の一つが、生産現場の声を代弁し、国や行政に積極的な働きかけをしてくれる議員を政治の場に送り出し、支えていくことです。そして、JAグループにとって最も重要なのが「参議院選挙比例代表」です。

参議院選挙では、各都道府県を区域とする「選挙区選挙」と、全国を一つの単位をする「比例代表選挙」の2つの選挙制度で成り立っています。「選挙区」は、北海道から立候補している候補者名を書いて投票します。「比例代表」は、全国から立候補している「候補者名」または「政党名」を書いて投票します。この「比例代表」は非拘束名簿方式といって、政党の得票数に応じて議席が配分された後、その政党の中で個人名の得票数が多い順に当選が決まる仕組みとなっています。



つまり、「比例代表」の投票用紙に「候補者名」を記入しないと応援したい候補者に票は入らない仕組みになっています。

「比例代表」には、さまざまな業界や団体が代表候補を送り出しています。多くの得票数を獲得し、当選順位を上げるよう活動しております。これは、高い順位で当選した候補者は、党内での発言力が増し、政策実現に近づくことができるからです。言い換えると、得票数で、我々JAグループの力が測られていることになります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。
次回(第6回)は、後援会の活動経過について報告します。

東野ひでき北海道後援会

臨時理事会報告
12月26日

12月臨時理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【監査講評】
第３四半期末 自治監査

【議　案】
1. 令和7年度 事業基本方針について
2. 令和6年度 クミカン供給限度額の変更について
3. 出資金の減口について

【報告事項】
1. 秋の経営懇談会の開催結果について
2. 令和6年度 農薬割戻奨励の精算について
3. 令和5年産 系統米の本精算について
4. 令和5年産 民間流通麦本精算について
5. 令和5年産 国内麦流通円滑化特別対策事業交付金の支払について
6. 令和5年産 北海道共同計算大豆本精算について
7. 令和6年産 民間流通麦の概算金追加支払について
8. 令和6年産 委託調製大豆に係る仮渡金の支払について
9. 令和6年産 委託調製なたねに係る仮渡金の支払について
10. 令和6年産 原料てん菜に係る仮渡金の支払いについて
11. 令和6年産 玉ねぎの概算金支払について
12. ㊫野菜価格安定事業価格差補給金の交付について
13. 定款第54条第３項の規定による利益相反取引について
14. 会計監査人の再任について
15. 令和6年度 第３四半期仮決算の結果について
16. コンプライアンス・プログラムの進捗状況について
17. リスク情報について
18. 令和6年度 農地流動に係る出資増口について
19. 年末手当の支給について

定例理事会報告
1月17日

1月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議　案】
1. 令和7年度における貸付利率の最高限度の決定及び信用の供与等の限度額の設定並びに専決処理の委任について
2. 令和7年度 内部監査計画について
3. 理事会の諮問審議委員会への諮問について
4. 正組合員の資格確認について
5. 任期満了に伴う役員選任について
6. 学識経験役員の選出方法について
7. 第77回 通常総会の開催について
8. 規程の改正について

【協議事項】
1. 第16次農協事業中期３ヵ年計画について

【報告事項】
1. 第１回 営農振興組合長会議の開催について
2. 令和7年産米の「生産の目安」について
3. 12月末 農産物保管状況について
4. 定款第54条第３項の規定による利益相反取引について
5. 12月期 ＪＡローンの貸付について
6. 内部監査の実施報告について
7. 人事について
8. 12月末 財務状況について

私達のJA

令和6年12月末日現在

組合員	2,617名
（前年同期比）	▲40名）
正組合員	411名
（前年同期比）	▲19名）
准組合員	2,206名
（前年同期比）	▲21名）
正組合員戸数	260戸
（前年同期比）	▲11戸）

表紙の紹介

◎今月号は、当JA青年部の皆さんに表紙を飾っていただきました。



編集後記

２０２５年になり、早くも一ヶ月が経ちました。1月～3月は時の流れが速く感じるといいますが、イベントの多い1月は特に速く感じます。このまま気が付いたらお爺さんになっているそうです。

発行　南幌町農業協同組合　〒069－0293　空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
TEL 011－378－2221（代表）、011－378－2274（直通）　FAX 011－378－0846　発行日　令和7年2月1日　企画・編集　営農部農業振興課　印刷　㈱トリムシステム
ホームページ　http://www.ja-nanporo.or.jp　メールアドレス　koho @ ja-nanporo.or.jp